

鶏肉情勢

令和2年12月1日 更新

全農チキンフーズ編

項目	内容
生	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査(一社)日本食鳥協会は11月下旬実施)によると、10月の推計実績は、処理羽数63,807千羽(前年比102.9%)・処理重量190.3千ト(同103.0%)となり、前月時点の計画値と比較すると処理羽数(同102.2%)は+0.7%、処理重量(同101.6%)も+1.4%と、ともに前年を上回り生産段階での生育が順調だったことが伺える。しかしながら廃棄合計は3.37%と前年同月より0.24%上回った。 (2) 11月は処理羽数(前年比98.2%)・処理重量(同97.4%)とも前月時点の計画値(98.2%・97.5%)ともほぼ同様に推移。12月も処理羽数(同101.4%)・処理重量(同100.5%)ともに前年を上回り、前月時点の計画値(101.4%・100.3%)並みの推移となっている。11-12月の計画値を含めた令和2年間の出荷は処理羽数(前年比102.5%)処理重量(同102.0%)ともに前年を上回ると見込まれている。しかしながら、今回の取り纏めは、鳥インフルエンザ発生前の集計で、餌付け等への影響は加味されていないと思われ、今後表面化することも予想される。
	2. 輸入 (1) 財務省11月27日発表の貿易統計によると、10月の鶏肉(原料肉)輸入量は47.89千ト(前年比92.8%)で、日本食肉輸出入協会の予測(44.60千ト)を約3.3千ト上回り、国別では全輸入量の約7割を占めるブラジルが予測を約1.2千ト上回る34.75千ト(同92.1%)、タイも約2.2千ト上回る12.22千ト(同102.2%)となった。1-10月累計では446.97千ト(同95.3%)と前年を下回った。同協会(11月19日鶏肉輸入動向検討委員会)は、11月44.70千ト(同91.5%)、12月40.90千ト(同91.0%)との予測を公表し「11月現在、一部で引き合いが強いものも見受けられるが、新型コロナウイルスの影響より外食需要が回復しきれていないことから、輸入鶏肉は引き続き様子見の状況にある。ブラジルは穀物輸出が好調のため、国内の飼料価格が上昇してきていることからオファー価格は徐々に上がってきている。タイにおいても、パーツ高騰の影響で値上がりしつつある。」とコメントしている。 (2) 鶏肉調整品の10月輸入量は39.17千ト(前年比86.1%)と、前月より約4.0千ト増加したものの4ヶ月連続で40千トを割り込んだ。国別ではタイ産が前月比約4.7千ト増加し前年比89.6%の26.19千ト、逆に中国産は前月比約0.8千ト減少の12.44千ト(同79.5%)となった。1-10月累計でも前年比91.0%と外食需要等の減少が影響し、下回った。11月以降についても、流動的でクリスマス・年末特需等控えてはいるが、中国国内の動向次第と思われる。
需	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、9月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量は3,698g(前年比104.9%)、金額も5,733円(同109.4%)と、ともに前年を上回った。畜種別でみると牛肉は数量(同109.1%)・金額(同115.4%)とも上回り、豚肉も数量(同104.2%)・金額(同106.8%)とも上回った。鶏肉についても、牛肉・豚肉に比べ安価な中等で前月に引き続きテーブルミート等での購入が活発で数量(同104.3%)・金額(同106.8%)とも伸び率は前月に比べ低かったものの前年を上回った。また加工品についてはハム(同98.0%)の数量が下回ったが、ソーセージ(同114.3%)・ベーコン(同105.3%)の数量が増加した。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、10月の食品売上高は全店ベースで前年比104.4%と上回り、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比106.8%、既存店ベースでも同105.8%と上回った。畜産部門の売上高は1,130億円(前年比105.9%)と上回り、既存店ベース(同105.0%)とも前月に続き前年を上回った。「一部に外食自粛に変化する兆しを指摘し、牛肉の好調に陰りを指摘するコメントもみられているが、全般的には家庭での調理用食材への需要は堅調に推移しており好調となった。週末を中心にステーキや焼肉用の好調が継続し、気温の低下とともに高まった鍋需要により鶏肉が好調となった。豚肉は、国産相場高の影響で伸び悩み、輸入品の販売を強化するなど対応している店舗が多い。」と報告された。また総菜部門の売上高は全店ベース(同102.8%)・既存店ベース(同101.6%)とも上回り、「イベント中止や、家庭内調理機会の増加による中食需要の低下により不振傾向が続いていたが、回復を指摘するコメントもみられている。ばら売り販売中止が影響で揚げ物類は伸び悩んでいるが、焼き物が好調となった店舗が多かった。気温の低下により麺類などホット総菜、家飲み用のおつまみ向け総菜は堅調に推移した。」と報告があった。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる9月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比94.3%の4.39千トとなった。うち国内物は同92.8%の3.61千トと下回ったものの、輸入物が同100.5%の0.78千トと上回った。1-9月累計では国産物は同100.5%と上回っているものの、輸入物が同87.4%と大幅に下回り合計では同98.2%となった。加工用としての輸入が若干回復したと思われる。鶏肉加工品は11月以降も引き続き家庭内需要や中食需要の高まりから動きも堅調と考えられ、逆に中国等からの調整品輸入が減少とされていることを考えると引き続き国産物での製造量増加が期待できると思われる。
在	1. 令和2年9月 (1) 推計期末在庫は国産27.77千ト(前年比93.0%・前月差△0.20千ト)、輸入品138.43千ト(同103.0%・同△0.71千ト)と合計で166.21千ト(同101.1%・同△0.91千ト)となった。前月に比べ生産量が3.99千ト増加し、輸入量も1.16千ト増加した。国産品の出回りが生産量を若干上回ったため、国産品の在庫は若干減少した。輸入品は、外食関連の需要がやや回復し、出回りが0.40千ト増加の42.19千ト、輸入量は1.16千ト増加したが在庫は若干減少した。しかしながら前年からは引き続き上回った状況で推移している。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(11月26日公表)では、10月は国内生産量が前月より増加(約12.9千ト)し、輸入量も前月比で約3.1千ト増加、出回り量も前月比で約20.4千ト増加するため期末在庫は約160.9千トと前月より約5.3千ト減少し、前年(167.14千ト)より約3.7%減少の見通しとなっている。 (2) 11月は前月比で生産量が約4.7千ト減少し、輸入量はブラジル中心に約0.1千ト増加、出回り量については約9.1千ト減少するため期末在庫は国産・輸入品合計ではほぼ前月並みの約160.2千ト(前年比96.4%)と予測されている。12月は生産量が約15.7千ト増加し、輸入量は約3.8千ト減少、出回りが約7.6千ト増加するも、在庫は約3.5千ト増加の約163.7千ト(前年比101.1%)と予測されている。しかしながら新型コロナウイルスおよび鳥インフルエンザ発生により需給動向に注視が必要である。
相	1. 11月動向 (1) 11月の月平均相場は、もも肉654円/kg(前月比+22円)・むね肉302円/kg(同+10円)正肉合計で956円/2kgと前月比で32円上回り、前年比でも124円上回った。もも肉は月初640円で始まり、月間通じほぼ上げ基調で推移し月末667円と結果+27円高となった。むね肉も、月初295円で始まり、多少上げ下げはあったものの上げ基調で月末305円の10円高となった。前月同様に内食需要が強量販店等からの引き合いに左右された格好になったと思われる。正肉合計が、950円/2kgを超えたのは、H30(2018)年2月(もも肉663円・むね肉304円・合計967円)以来となった。
	2. 見通し (1) 12月は、気象庁発表による向こう1か月の気温はほぼ前年並みの予報となっている。内食需要が多い中、クリスマス・年末を控え最需要期に入り、鍋物等での需要が増加することからも肉は強含みで推移し月平均670円と予測する。むね肉についても、もも肉に付随し、いまだ加工筋からの引合いも堅調であり、強含みの月平均310円と予測する。 (2) 新型コロナウイルス感染が猛威を振るう中、新たに鳥インフルエンザが継続し、国産鶏肉の今後の需給への影響が心配される。いまだ輸入品在庫が豊富で価格も上昇する気配がなく、量販店が取り扱いは拡大しつつあるが、内食需要が継続していることから鶏肉生鮮相場は強含みで高水準での推移が見込まれる。

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

	R2年10月推計実績		R2年11月計画		R2年12月計画		R3年1月計画		R2年合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	65,346	101.2%	60,586	99.3%	69,036	103.5%	63,740	98.8%	763,724	102.1%
処理羽数	63,807	102.9%	60,196	98.2%	66,998	101.4%	59,079	99.1%	728,963	102.5%
処理重量	190.3	103.0%	180.4	97.4%	200.3	100.5%	176.2	98.3%	2,167.4	102.0%

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」

輸入動向 単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R2年7月	51.6	53.2	96.9	38.4	46.6	82.3	90.0	99.8	90.1	57.3	42.7
R2年8月	40.3	50.5	79.8	33.2	42.0	79.2	73.5	92.5	79.5	54.8	45.2
R2年9月	41.5	53.6	77.4	35.2	41.1	85.6	76.7	94.7	80.9	54.1	45.9
R2年10月	47.9	51.6	92.8	39.2	45.5	86.1	87.1	97.1	89.7	55.0	45.0
R2年累計	447.0	469.1	95.3	382.6	420.4	91.0	829.6	889.5	93.3	53.9	46.1

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞

鶏肉の消費動向(2人以上の世帯) 単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年7月	1,530	1,298	117.9	1,364	1,185	115.1
R2年8月	1,473	1,244	118.4	1,348	1,121	120.2
R2年9月	1,401	1,343	104.3	1,327	1,242	106.8
R2年平均	1,545	1,373	112.5	1,408	1,262	111.6

※参考資料:総務省統計局HP

相場(年別・暦年) 単位:円

	もも肉	むね肉	計
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828

在庫状況 単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年6月	18.6	30.6	60.7	152.2	123.0	123.7	170.8	153.6	111.2
R2年7月	29.5	29.0	101.6	140.6	127.6	110.2	170.1	156.6	108.6
R2年8月	28.0	28.7	97.4	139.2	128.2	108.5	167.1	157.0	106.5
R2年9月	27.8	29.9	93.0	138.4	134.5	103.0	166.2	164.3	101.1

※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構

相場(月別) 単位:円、%

履歴	もも肉			むね肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年8月	596	535	111.4	272	225	120.9	868	760	114.2
R2年9月	609	544	111.9	281	235	119.6	890	779	114.2
R2年10月	632	556	113.7	292	254	115.0	924	810	114.1
R2年11月	654	570	114.7	302	262	115.3	956	832	114.9
R2年12月	(670)	606	110.6	(310)	266	116.5	(980)	872	112.4
R3年1月	(680)	622	109.3	(310)	262	118.3	(990)	884	112.0
R2年平均	608	584	104.1	265	241	110.0	873	825	105.8

※()は見直し
※1-11月平均